

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物9 赤禰武人^{あかねたけと}5

(1838〜1866年)

慶応元(1865)年12月27日、柱島で捕らえられた赤禰武人は、山口の牢に入れられました。そして、幕府に捕らえられていた際に出したとされる意見書の中に、公武合体を勧める内容があったことと、釈放されて長州藩に戻ってきた後、数十日間隠れていたという罪状で、斬首が決定します。その間、一度の裁判も行われませんでした。

慶応2年1月25日、武人は鰐石河原(山口市)で処刑されました。その獄衣の背中には「真は誠に偽りに似、偽りは以て真に似たり」と記されていたと伝えられており、弁明の機会すら与えられなかった武人の無念が表れているようです。武人の処刑については、長府藩主毛利元周が弁明に駆け付けた話や高杉晋作が自身の死の直前に後悔していたとの話も残っています。

明治に入り、西南戦争で戦死した西郷隆盛の復権のために贈位(追贈)が行われたのを皮切りに、旧長州藩でも吉

田松陰や高杉晋作など多くの人々が贈位されました。武人についてもその復権のため、義弟赤禰篤太郎の贈位請願に始まり、柳井市や岩国市からも請願がなされましたが、奇兵隊時代の同僚であった山縣有朋らの反対により武人の贈位が叶うことはありませんでした。

その理由には下関戦争での武人の行動などが挙げられていましたが、史料には武人の奮戦も記されており、山縣らがなぜ同志の復権にそこまで反対したのか、現在も謎に包まれています。

松陰に大きな影響を与えたことでも知られる僧宇都宮黙霖は、武人の死後に「異シマス柱志士ノ元ヲ喪フヲ皇天后土其ノ冤ヲ識ル」という追悼の詩を送っています。「天地の神がその冤罪を知っている」というこの詩に対して、岩国市出身の文学者である河上徹太郎はこの謹直な坊主に認められれば、山県輩のいい分など物の数ではなく、贈位に勝る雪冤である」と記しています。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 朝廷と幕府を一体化させる考え。当時の長州藩は倒幕に傾いており、武人自身もその考えを他の手紙の中で述べているため、書いた意図は疑問視されている

※2 無実の罪であることを明らかにすること



▲処刑された地に建てられている赤禰武人顕彰碑(山口市)



▲赤禰武人の墓(柱島)。墓はこのほかに、柳井市と下関市にもある

平成28年1月25日で赤禰武人没後150年です

岩国市 人口・世帯

人口 140,627 人【前月比 - 131人】 男性 66,577 人 女性 74,050 人

世帯 66,558 世帯【前月比 - 13世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年6月1日現在)

交通事故発生件数 5月分事故件数 47件(204件) 死者数 0人(1人) 傷者数 62人(235人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337